

「うれしい」のつながりを大切に

◇師走に入り、令和3年(2021年)も残すところあと1ヶ月となりました。子供たちが2学期登校するのはあと18日です。しっかりと2学期のまとめを行っていきます。

◇11月20日には、土曜参観および校内工作展にお越しいただき、ありがとうございました。本来であれば、土曜日ということで平日だと学校に来れない方にもお越しいただく機会なのですが、落ち着いてきているとはいえ、コロナ禍の中であるため各ご家庭1名と人数制限をさせていただきました。ご理解ご協力いただきありがとうございました。2月の参観については、今後の様子をみながら判断させていただきます。参観のお手紙等でお知らせしますので、よろしくお願いいたします。



◇『貴志南っ子』11月号に断水の記事を書き、ホームページにも「お礼のお手紙を送りました」という記事をアップしています。子供たちの「助けてもらったのでお礼を言いたい」「手紙を書きたい」という気持ちもうれしかったですし、手紙を受け取った水道局の方からいただいた「とてもうれしかったです」「みんなで読ませてもらいました」という言葉もうれしかったです。今回はその続きです。

◇土曜参観の日、受付のあたりに「くらしきの水」を紹介させていただいていました。子供たちからの手紙のお礼にと、お水を送ってくださったのですが、実は今回のことだけではなかったのです。お水とは別にいただいた手紙の中には、平成30年7月豪雨で、倉敷市真備町が甚大な被害を受けたこと、その際に大変多くの自治体の方に支援をいただいたということ、和歌山市からも応急給水活動に来てくれたこと、和歌山市民のみなさんにもボランティアや義援金などで応援をいただいたということが書かれていました。このお手紙を読ませていただいて、「エルトゥール号」の話を思い出しました。(6年生の道徳の教科書にも載っている、和歌山とトルコの友好のお話です) 困っている人がいたら助けたいと思う心、相手のことを大切に思う心、してもらったことに対してお礼をしたいと思う心。そのように、お互いを尊重し合うとよい関係を作っていくことができます。

◇今回のことが、このような形でどんどんつながっていったことを本当にうれしく思います。子供たちがこれから大人になっていく中で、「うれしい」をどんどんつなぎ、いろんな人とよい関係を作っていけるようになってくれることを願います。

◇雨の後また気温がぐっと下がるようです。2021年の終わりを元気に迎えられよう、子供たちも保護者の皆様も体調に気を付けてお過ごしください。



冬晴や できばえのよき 雲ひとつ (岡田史乃)

< 学校長 >